



ソーシャル・インクルージョンの考えに共鳴したヤマト運輸が、障がい者の雇用を実現する仕組みとして全国十数ヶ所でフランチャイズ展開している「スワンペーカーリー」。大東店は、今年8月29日に1周年を迎えた



障がい者の人たちは、健常者に混じって、パンの製造をはじめレジやパンの整理などの仕事に従事している

1周年を記念して店の前ではかき氷の販売をするなどイベントも行っていることもあり、店は大盛況

● 実践レポート ●

再チャレンジできる社会づくりを目指す

日本ソーシャル・インクルージョン推進協議会
(大阪市)

ナビゲーター
日本ソーシャル・インクルージョン
推進協議会会長
炭谷 茂

「ソーシャル・インクルージョンとは
社会の仲間に入れていくこと」

例えば、職を失い定住もままならなくな
ってしまった場合、再就職することは、現在の
日本では難しい。そうした現状を改善するこ
とを目的に、二〇〇四年春に創設されたの
が日本ソーシャル・インクルージョン研究会現
同推進協議会)である。「私はソーシャル・イ
ンクルージョンのことを、『社会の仲間に入れ
ていく』と訳しています」と同会を立ち上げ
た炭谷茂前環境省事務次官は説明する。

ソーシャル・インクルージョンの理念は、一〇
年余り前にフランスで考えられた。「第二次
世界大戦後、アルジェリアなどの旧植民地か
ら多くの移民労働者を受け入れて復興を遂
げたフランスですが、その後の移民労働者に
対する社会的排除の広がり、大量失業によ
る地域の荒廃、治安の悪化等、深刻な社会
問題を引き起こしていったのです。そこで、地
域・社会の安定化のために、社会から排除さ
れやすい人々を社会の仲間として包摂し
ていくソーシャル・インクルージョンの理念と政
策こそ重要ではないかと考えられるようにな
りました。一九八八年には法律もつくられ、
その後EUの政策にも反映されています。ま
たイギリスのブレア政権でも、政策の基本にソ
ーシャル・インクルージョンの考え方が買かれて
います。その頃にイギリスを訪ねていた私は、
日本でもその考え方を活用したらどうだろ
うかと思いついたわけです」。

ソーシャル・インクルージョンの特徴は、単に



「太陽公園」では、障がいのある人たちに働く場を提供するため、神戸の異人館を再現したカフェも造られている。また、このカフェの背後の山頂にはヨーロッパの城が再現される予定になっている



今回のナビゲーターである
炭谷茂前環境省事務次官



「日本ソーシャル・インクルージョン研究会(現・同推進協議会)」の立ち上げ時からメンバーに加わっていた(社)愛光社会福祉事業協会の門口堅蔵理事長は、障がい者や高齢者といった社会的弱者を雇用し、その実践を図っている



公園の券売所では、障がいのある人も健常者に混じって受付を担当している



「太陽公園」には、世界の名所が再現されている(写真は天安門広場)。それらの清掃を障がい者の人たちが担当している

困っている人に社会保障の給付をするのではなく、適切な教育や就労の機会を提供することによって、自立した生活を実現し、社会とのつながりの回復を目指す点にある。「私は、イギリスのCAN(Community Action Network)という団体が、ロンドンの東にあるスラム街を再生させた手法が、日本でも活かせるのではないかと考えました」。そこで、日本ソーシャル・インクルージョン研究会は、CANの手法を取り入れて、いくつかの実験的な事業を手がけ、例えば、大阪の西成区では仕事に就けない人たちへの新たな仕事づくりの試みとして、地域の公園管理の受託などを実現している。「まだまだ日本の状況に合った方法を模索中ですが、社会に出たいと願う人に再びチャレンジの機会が与えられるような社会を何とか実現させたいと思っています」。

(文責・CEL編集室)

CEL

日本ソーシャル・インクルージョン推進協議会

【連絡先】

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-48-210
社団法人 生活福祉研究機構内

TEL 06-6393-0750
FAX 06-6393-0752